

ご挨拶

本日はご来場頂きまして、誠にありがとうございます。

本公演では、今年日本と3つの周年を迎えるブルガリアより、1980年代に世界中で一斉を風靡したポリフォニー・コーラス“ブルガリアン・ヴォイス”の世界的グループ「アンジェリーテ」の来日公演をお届けします。

ブルガリアン・ヴォイスはクラシックの音楽と異なり、20名の女性がモンゴルのホーミーにも似た地声の発声を重ねることで、差音や倍音を活かした独特のサウンドを生み出します。様々な価値観やそれぞれの個性といった「違い」を受け入れ、活かしていくその精神は、国際社会を生きる現代の私達に、多文化を受け入れ調和の中に進化と発展を求める「文化的豊かさ」を教えてください。土着の生活のエネルギーや大地そのものを感じさせるようなブルガリアン・ヴォイスの質感は、同時にどこか先鋭的で宇宙的でもあり、これから先の文化の未来を作っていくための指標にもなり得るものと思います。

そして、今回特別ゲストとしてこのブルガリアン・ヴォイスと共演するのが、日本の雅楽器を代表する“笙”のアンサンブル、「星筐 -HOSHIGATAMI-」。この日本の精神を代表する楽器は、実はブルガリアン・ヴォイスのサウンドの特徴によく似ており、多くの倍音、差音を含んだ調和（ハーモニー）を奏でます。そしてその音は、まるでいしへの楽器でありながらやはりどこか未来的な響きを湛えています。

本企画は、地球音楽プロジェクト実行委員会名義での第一回公演開催です。当実行委員会は、世界の様々な音楽や文化を日本に紹介し、活発な文化交流を行うことを目指し、本公演では大地の響き“ブルガリアン・ヴォイス”と天上の光“笙”、この2つの融合によって、今年3つの周年を迎える日本とブルガリア両国の交流、ひいては異文化、多文化の調和による発展の精神を世界に発信できればと思っております。

どうぞ、この地球唯一の美しい音楽を心ゆくまでお楽しみください。

地球音楽プロジェクト実行委員会一同

演奏予定曲

※当日の曲順・曲目は変更となっております

第一部

カヴァルの音色 KAFAL SVIRI - Petar Lyondev

「カヴァルが鳴っているわ、母さん。丘からくぼ地まで響いている。私、見に行くわ。聴きに行くわ。吹き手がこの村の人だったらちょっとの間だけ恋するわ。ジブシーだったら一生かけて愛しちゃうわ」カヴァルはバルカン半島の長い牧笛で、斜めに吹く。その音色はブルガリアの娘達を魅了してきた。

森よ芽吹け LISTNI SE GORO - Stefan Moutafchiev

ロドピ山脈のハイドゥクの歌。ハイドゥクはバルカン山地一体で支配者だったトルコに反抗した義賊たちで、その活躍を讃える民謡は多く残されている。森の木々が葉を落としてしまうと支配者に見つかってしまうので、ハイドゥクの首領は仲間が隠れられるように、早く木々が芽吹き緑の葉をつけるようにと祈る。

花摘み BRALA MOMA - Stefan Moutafchiev

庭で気に入った花を摘んでいた乙女は、愛する人と出会う。

ショップ地方の伝統歌 SHOPSKI PRIPEVKI - traditional

カルテット：タティヤナ・ドゥバリノヴァ、ソニヤ・ケレメツエヴァ、ナディヤ・ヴラディミロヴァ、ユリア・コレヴァ

あなたはチューリップ…？ LALE LI SI… - Filip Koutev

あなたはチューリップ？それともヒヤシンス？バラ？恋する青年が愛する人の美しさを何の花に例えればよいのか迷う。

聖母 BOGORODIZE - Alexander Arhangelski

ロシア正教会の作曲家アレクサンドル・アルハンゲルスキー(1846-1924)による聖歌。

同胞のための祈り

MOLITVA ZA BLIJNIJA - anonym (XVI c.) arr.Katya Barulova
16世紀の聖歌。作者不詳。

ふるさと FURUSATO - 高野辰之作詞・岡野貞一作曲

ドラガナとナイチンゲール DRAGANA I SLAVEI - Filip Koutev

ナイチンゲールは翼を賭けて、ドラガナは長い髪を賭けて歌を競った。ドラガナが勝利したが、彼女は勝利だけで満足したので、ナイチンゲールの翼は切らなくていいと言った。

カルテット：ポリナ・ディミトロヴァ、ユリア・コレヴァ、コスタディンカ・インコヴァ、トニヤ・ヤンコヴァ

タパンを叩いて TAPAN BIE - Zdravko Manolov

お茶目なヤナを中心にして村の森から野原へ踊りまわるホロ舞曲の歌。タパン(バルカン一帯で広く使われている両面の大太鼓)の音を口まねで表現している。

第二部

ブルガリアン・ヴォイスと笙によるコラボレーション

美しきヤナ DIULBER JANA - Tasho Barulov

有名なトラキア民謡に新たなアレンジを施したもの。美しいヤナは一人、畑で収穫に汗を流している。不運な年が続く中で、彼女は寂しさによるべない気持ちにさいなまれている。ソリスト：ガリヤ・ハラランビエヴァ

3羽のナイチンゲール TRI BULBULA PEYAT - Peter Kroumov

ピリン山に由来する抒情的な歌詞で、3羽のナイチンゲールについての恋の歌。ソリスト：ユリア・コレヴァ

独身のおじいさん ERGEN DEDA - Petar Lyondev

独身のおじいさんが、若作りをして村のダンスの輪に入った。すべての娘たちが逃げていく中、一番若いアンジェリーナだけがとどまった。

さあ、おいで MORI AIDA,AIDA - Kiril Stefanov

自分の結婚式の資金を得るため、お気に入りの馬を売らなければならない若い男の物語。タンバリン演奏：コスタディンカ・インコヴァ

ピリン地方の伝統的な歌

TRADITIONAL SONGS FROM THE PIRIN REGION - traditional

ギゴ、私の息子よ GIGO,MAMIN GIGO - Tasho Barulov

母親が甘やかされて育った息子を、大人としてしっかりと生きなさい、とたしなめている。

眠たげなヤナ NA YANA SE DREMKA DREME - Veselin Dobrovski

居眠りしたい者は眠らせよ一歌いたがる者には歌わせよ。家族や労働者の集まりで歌われる朗らかな歌。ソリスト：ピリヤナ・ソコロヴァ

嫁の嘆き BESRODNA NEVESTA - Nikolai Kaufman

「この声はどこから聴こえるのだろうか?カッコウの鳴き声だろうか?いや、それはラドリンカが自分の運命を嘆く声なのだ」。嫁ぎ先では彼女を除くすべての娘たちに子どもができた。そのため姑は彼女を蔑ろに扱う。ソリスト：タティヤナ・ドゥバリノヴァ

眠りに落ちて ZASPALO E CHELEBIYCHE - Christo Todorov

朝早く旅立たねばならない若者が深く寝入っている。その恋人は、彼を起こすことを気の毒に思う。

聖ラザロの日のための2つの歌 DVE LAZARSKI PESNI - Nikolai Kaufman

ブルガリアの伝統行事ラザルヴァネ(聖ラザロの日)に歌われる2つの慣例的な曲。

※曲目は変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

ブルガリアン・ヴォイス アンジェリーテ・メンバー紹介

(左から)

- 1 Biserka Danova-Pilarska ビセルカ・ダノヴァ・ピラルスカ
- 2 Bilyana Sokolova ビリヤナ・ソコロヴァ
- 3 Polina Dimitrova ポリナ・ディミトロヴァ
- 4 Tatyana Duparinoval タティヤナ・ドゥバリノヴァ
- 5 Nadezhda Stoilova ナデジダ・ストイロヴァ
- 6 Stilyana Aleksieva スティリヤナ・アレクシエヴァ
- 7 Sonya Keremetchieva ソニヤ・ケレメツエヴァ
- 8 Yuliya Koleva ユリア・コレヴァ
- 9 Nadya Vladimirova ナディヤ・ヴラディミロヴァ

- 10 Katya Barulova カティヤ・バルロヴァ(指揮)
- 11 Galya Haralambieva ガリヤ・ハラランビエヴァ
- 12 Stanislava Vasileva スタニスラヴァ・ヴァシレヴァ
- 13 Kostadinka Ratsova コスタディンカ・ラツォヴァ
- 14 Vanya Vakari ヴァニヤ・ヴァカリ
- 15 Kostadinka Inkova コスタディンカ・インコヴァ
- 16 Velichka Chausheva ヴェリチカ・チャウシェヴァ
- 17 Valeria Petrova ヴァレリア・ペトロヴァ
- 18 Ekaterina Bogdanova エカテリナ・ボグダノヴァ
- 19 Tonia Iankova トニヤ・ヤンコヴァ

